



美術と数寄屋のおもてなし
FURUKAWA Art Museum
古川美術館

PRESS RELEASE

令和4年9月吉日

平素は格別のご厚情を賜りありがとうございます。

この度、2022年10月22日より、名古屋市千種区の古川美術館では、千種区に100畳のアトリエを持ち、芸術村を夢見た市野亨とその息子、龍起・鷹生の日本画を紹介します。つきましては是非とも貴媒体にてご紹介いただきたく、お願い申し上げます。

古川美術館特別展

名古屋に芸術村を！

いちのとおる

たつおき

たかお

市野亨と龍起・鷹生～100年の命宿る色彩

2022年 10月22日（土）～12月18日（日）



【お問い合わせ】 公益財団法人 古川知足会 古川美術館・分館 爲三郎記念館
電話 052-763-1991 FAX 052-763-1994(学芸課)
〒464-0066 名古屋市千種区池下町2丁目50番地 ※地下鉄東山線池下駅下車・徒歩3分

おやいづ

担当学芸員 小柳津 綾子(a_suzuki@furukawa-museum.or.jp)

広報担当学芸員 山内 綾子(a_yamauchi@furukawa-museum.or.jp)

名古屋の100畳アトリエ「あげはちょう」から羽ばたく

～日本画親子3人のSTORY

1. 名古屋で夢見た芸術村

名古屋に芸術村を夢見た日本画家・市野亨（1910-1966）とその子、龍起・鷹生の親子展を開催します。約100年前に画家を志した亨は、会場芸術を唱えた川端龍子に憧れ師事し、戦後まもなく千種区の丘陵地に兵舎跡を利用した100畳のアトリエを開きます。

2. 大きく羽ばたく希望の地・アトリエの地「あげはちょう」

龍子が詠んだ句「薫風に あげはちょうと 名付けたり」に由来し、後に「あげはちょう（現在は揚羽町）」と呼ばれるようになったアトリエ（若手作家育成の画塾でもあった）の地は、画家仲間が集う芸術村の様相であったといえます。亨は、大胆かつ緻密、鮮やかな色彩による花鳥画の大作を描き、戦後の名古屋画壇を率いました。しかし、1966年、亨は55歳という若さでこの世を去り、同年には師・龍子も亡くなります。

3. 受け継がれた色彩美～日本画家 市野龍起

その息子・龍起（1942-1997）は、川端龍子が名づけ親となった、生まれながらの画家。亨も龍起ものめり込んだのは、日本画顔料の美しい色彩美と、命の宿る日本画でした。父子ともに時に100羽もの鳥を飼育し絵にした「鳥の画家」として知られ、情熱的な制作も共通していました。龍起は、父と龍子の死後、高山辰雄に師事し日展で活躍します。ところが、運命のいたずらか、父と同じ55歳という若さでこの世を去ります。しかし、両者の作品の輝きは今なお見るものを魅了し続けています。

4. 情熱は今も～日本画家 市野鷹生

本展では、現在も日本画家として活躍する龍起の弟、鷹生（1947-）の作品も合わせ、親子3人の作品を展覧します。鷹生は、文学や神話の人物や動物をテーマにした穏やかな作品から、時代を反映したものまで幅広い作風ですが、画家としての情熱的な生き方は親子3人に共通しています。

5. 市野家100年～輝く親子3人の日本画がここに！

伊勢湾台風を逃れ、永く市野家に秘蔵されていた亨の大作3点は、90年以上の時を経てのお披露目となります。若き亨が、故郷（海部郡）の雑木と鳥をテーマとした大作には、厳しくも美しい命の輝きが見てとれます。古川美術館の市野龍起コレクションとともに、命の宿る日本画の美しい輝きをお楽しみください。

市野 亨（とおる） 作品のみどころ

- ★ 代表作「七彩鳥」は、圧巻のインパクト！
- ★ 市野家秘蔵の若き日の3作は90年以上ぶりのお披露目！緻密な描写に注目！
- ★ 伊勢湾台風の被害で部分のみ残された「軍鶏」。それでも迫力満点！



新収蔵・初公開
90年ぶりのお披露目！
朝見香城に師事していた
20歳前後の作！
細密すぎる描写は必見！



市野亨「鷹（蟻の行列）」187×110.5cm



市野亨「軍鶏」166×74cm

新収蔵・初公開

龍子に師事して間もない20代後半の作と推測。もともとは大画面でその一部分が残されたもの。それでも、この迫力！

市野亨の代表作！
2.3×3.4mの巨大作品は圧巻！



市野亨「七彩鳥」1942年 226×337cm

市野 龍起（たつおき） 作品のみどころ

- ★ 古川美術館の龍起コレクションから、選りすぐりの逸品を紹介
- ★ 計算しつくされた色彩と空間構成の美しさを実感！

裸婦シリーズの傑作！
構成に裸婦の型紙を使い、
綿密に計算！



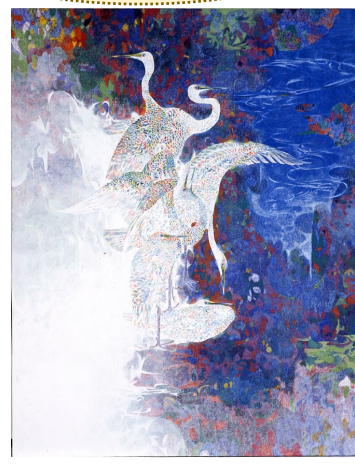
市野龍起「廻」1987年 225×164cm

100羽以上飼育して晩年精力的に描いた「鳥」シリーズ。宝石のようなカワセミの輝きは水面にも。



市野龍起「氾」1994年 190×230cm

師・高山辰雄に
「岩絵具の発色は見事」
と言わしめた色彩美！

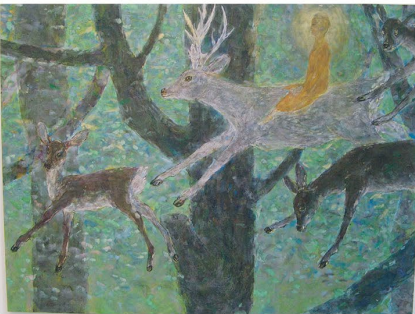


市野龍起「白鷺」1990年 226.5×171cm

市野 鷹生（たかお） 作品のみどころ

- ★ 神話と歴史的遺物にみる神秘と、絵から放たれる優しい希望の光
- ★ 現実と空想と～惹きこまれる静寂な世界観

★市野鷹生によるアーティストトーク開催！10/22（土）、11/24（木）14時～



市野鷹生「春日野」2014年 100×390cm（3点計）西照寺蔵



市野鷹生「朝陽」特80号 個人蔵

白い鹿に乗り、奈良・平城京に降り立った、国の守護神タケミカヅチノミコトの伝承より。

奈良・松尾寺の秘仏。世界で一番美しい焼損仏と言われる、奈良時代の千手観音像トルソー。宇宙空間に漂う神秘的なイメージを抱き制作した作品。

朝陽を浴び、好奇心旺盛な子につられ、次々と顔を出すヤクシマヤギ。濃いこげ茶色の体色が野生的な美しさ。



市野鷹生「千手観音」2014年 個人蔵

トリビア1 名古屋の名所の中に！

市野亨の大作「老松」1947年

名古屋能楽堂のけい古室「鏡板」

として、現存していた！

★ 12/7（水）10時から見学会を開催！
舞台・展示室・けい古室、全ての鏡板の
老松・若松を見学する貴重な機会です！



作画：市野亨 名古屋能楽堂けい古室鏡板

名古屋市能楽堂けい古場の舞台鏡板として、市野亨の大作「老松」が現存している。1947年（昭和22年）、市野亨が37歳の時、千種区の料理旅館の舞台上に描かれた。その後、1997年（平成9年）に所蔵者より名古屋市に寄贈され、能楽堂の地下けい古舞台に移され、今も現役の鏡板として利用されている。

トリビア2 名古屋の地名編

市野亨アトリエの地
茶屋ヶ坂のあげはちょう
(現・千種区揚羽町)
の名づけ親は、
日本画の巨匠・川端龍子！



左：市野亨 右：川端龍子

川端龍子が市野亨の名古屋のアトリエを訪れた際、
亨の依頼により龍子がアトリエのある山の町名を
「あげはちょう」と命名。
その地に、多くのアゲハチョウが飛ぶのを見て、
川端龍子が詠んだ句に由来する。

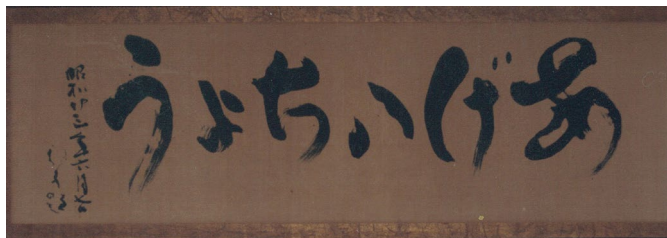
薫風に あげはちょうと
名づけたり

川端龍子 1948年（昭和23年）

1960年（昭和35年）3月20日
「揚羽町（あげはちょう）」成立
千種区鍋屋上野町字汁谷の一部より成立
茶屋ヶ坂公園が造成された年

川端龍子は、大胆な発想と自由奔放な作風で、大衆に訴える大画面の作品を描き、「会場芸術」と称された時代の風雲児。彼が主宰する「青龍社」には、ド迫力の大作が多く出品された。

「青龍社」の名古屋支部が、市野亨の起こした「青名会」。あげはちょうのアトリエは、青名会の若手作家育成の画塾でもあり、多くの画家が集まった。



川端龍子「あげはちょう」原本 48×173cm
1948年（昭和23年）6月7日 ※個人蔵。現存



川端龍子による揮毫（きごう）「あげはちょう」石碑
1963年（昭和38年）10月建立

※所在不明

※龍子の句「薫風に あげはちょうと 名づけたり」の石碑も建立されていたというが、現在は所在不明。

碑裏面

「この地もと千種区鍋屋上野町汁谷という、太平洋戦争中高射砲陣地ここに築かる、のち譲り受けて青名会の基地とす、けだし、あげはちょうは龍子師の名づけたもうところ、爾来十五年を経たり、いま揚羽町と称す、ここに青龍社三十五周年を迎え記念として標記一柱を建つ、なお句碑は師命名の折の作なり併せてしるす。」

亨 識



美術と数寄屋のおもてなし
FURUKAWA Art Museum
古川美術館

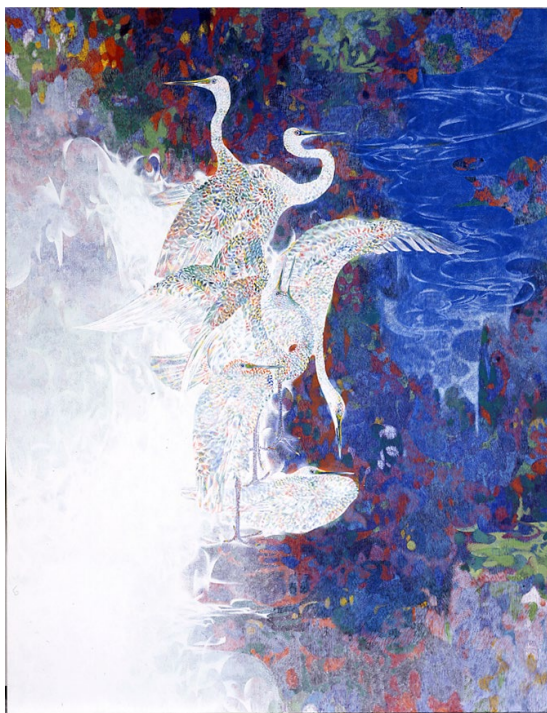
PRESS RELEASE

広報使用画像 mail : a_suzuki@furukawa-museum.or.jp (担当学芸員 ^{おやいづ} 小柳津 綾子)

メールにてお問合せください。他の画像も全て用意できます。



市野亨
「七彩鳥」
1942年
226×337cm
古川美術館蔵



市野龍起
「白鷺」1990年
226.5×171cm
古川美術館蔵



市野鷹生「朝陽」特80号
個人蔵

古川美術館特別展「名古屋に芸術村を！市野亨と龍起・鷹生～100年の命宿る色彩」

- ◆2022年10月22日(土)～12月18日(日)
- ◆休館日 月曜日
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時半まで)
- ◆会場 古川美術館 ◆主催 公益財団法人 古川知足会
- ◆後援(予定) 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、中日新聞社、CBCテレビ、スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社
- ◆観覧料 大人1000円 高大生500円 中学生以下無料 ※二館共通入館券となります。